



図書館 だより

図書館 ☎ 69♦3706

おしえて! 図書館 (レファレンス)

Q 社会人になりました! 就職活動のときに勉強した“大人の心得”。もう一度確認したいです。

A こちらの本はいかがでしょう。



ビジネスマナー BOOK
これだけは知っておきたい! すべての仕事の基本はマナーから!

岩下 宣子 / 監修
新星出版社

やってしまいがちなマナー違反や、電話メモの書き方など、各場面での基本が表や図・イラストを交えて、とても分かりやすく書かれていますよ。

新生活、頑張ってくださいね。

レファレンスとは情報や本などを探すお手伝いをする図書館のサービスのひとつです。

図書館に入った本



いろいろな本があります。
一部をご紹介します♪

『悲嘆の門』上・下巻

宮部みゆき / 著
毎日新聞社

『寝ても覚めても夢』

ミュリエル・スパーク / 著
木村政則 / 訳 河出書房新社

『顔を忘れるフツーの人、瞬時に覚える一流の人』

山口真美 / 著 中央公論新社

『美味しい、おかゆ』

帯津良一 / 著 検見崎聡美 / 料理
河出書房新社

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。

魚は人になつくのか?

■魚の水面上昇

水族館で水槽を眺めていると泳いでいた魚が水面めがけて一斉に上がっていく時があります。これは水槽の裏側を飼育員が通るとよく起こる現象。魚たちは通りかかった飼育員に反応して「エサもらえる!」と思つて水面に上がるのです。自宅で金魚などを飼つてもよくあることです。しかし飼い主のお父さんなどは「オレになつて寄ってきた!」と喜びますが、たいていの場合、誰が来ても

金魚は楽しげに水面に上がってきます。お母さんや娘はそのことに気が付いていますが、お父さんは金魚しか友達がいけないので、かわいそうに黙っているだけなのです。「なれる」を辞書で調べると「親近感を抱き、近づきなむ」と書いてあります。水面へ上がつてくる魚は果たして飼育員に親近感を抱いておるのかは不明ですが、近づきなむのほうはそれ相応な反応のように思えます。

■深海魚ですらなつく

海や川から来たばかりの魚は近づくどころか通りかかった飼育員

■なつかない生き物

その一方で、成熟した大人の魚やもともと臆病な魚はヒトの存在やエサをもらえらるという認識をたくなに受け入れずに物陰から「オレは信用しないぞ」というあ

におびえて逃げるのがほとんどです。しかし日を追うごとに「あれ、こいつが来るとなんだかゴハンにありつけるぞ」と思い始めるらしく、最終的にはほとんどの魚はなれて毎日嬉しそうに水面に上がってきます。深海に住む魚でさえ、なれると水面から頭を出してエサをねだってきます。深さ250メートルに住む深海魚が自分の意志で水面から頭を出すという現象は実際の深海で暮らす彼らにとつては一生経験することはないことだと思えます。

からさまざまな目をしてこちらをジッと見つめています。そういう魚にはこちらもジッと物陰から観察してお互いなんだか陰気な気分での関わりとなります。

魚以外の生き物では、タカアシガニなどはめつたにヒトになれませんが、寄ってくることはなく、まっすぐ前を見つめて清い心で自分の生活をつらぬいています。エサをハサミに持たせたり、口に近づけると我に返つたように慌てふためきエサを掴んでモリモリ食べます。アシカはシヨをやるぐらいだから魚よりもなれますが、ヒトを判断し、担当の飼育員以外には心の壁を作ります。ウニやヒトデはなれません。イソギンチャクもなれません。彼らは毎日何を考えて生きているのか不明です。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎ 68♦2059